

研究戦略（案）に対する委員からの追加意見

《 全般 》

- 今回の戦略検討の意義や活用方法について、より明確に記載すべき。
- 今回の戦略の成果は 27 年度の予算要求に伴う財務省等の査定結果に係わらず、研究基本計画などの中長期的な視点での基本方針であるとの趣旨を明確に位置づけて研究戦略の継続性を確保すべき。
- 適当な時期に技術会議への報告を行い、委託プロジェクト研究の、特に生産現場の強化における戦略の妥当性を確認することでより明確な位置づけを確保すべき。
- 研究基本計画の方向性は、次のようなものと思料。これと今回の戦略との整合性があることをわかりやすく整理すべき。
 - ①安全、信頼の食品の安定供給と健康長寿への貢献
 - ②生産流通システムの革新によるコスト削減
 - 2.生産流通システム革新
 - ③新たな産業や雇用を創出
 - ④農林水産物の単収・品質向上
 - 1.収益力向上
 - ⑤農林水産業の持続化・安定化
 - 3.産地強靱化
 - ⑥地球温暖化問題への対応による国際貢献
 - 3.産地強靱化？

I はじめに

- 「今後プロジェクト研究を推進するに当たっては、これら国の計画に基づき食料自給率力の確保、食の安全と消費者の信頼の確保に向けた農業技術の革新が求められる。」とすべき。
- この検討会は、活力創造プランの①需要フロンティアの拡大、②バリューチェーンの構築、③多面的機能の維持・発揮、④生産現場の強化の中の④生産現場の強化を主体としたものであることを明確に記載すべき。
- 「農業の姿」は「農業・農村の姿」としてはどうか。農村を入れた場合、1),2),3)には農村に関わる内容が必要。
- 「平成 27 年度委託プロジェクト研究「生産現場強化のための研究開発（農業）」の推進に

1 当たっては、・・・」は、農村の扱いを明確にすること、また、27 年度に限定したものでは
2 なく、今後5年間の基本的な戦略という意図を明確に記載することが望ましい。

6 II 農業を魅力ある産業にするための「収益力向上技術」

- 8 ○ 国産農産物の安定供給とともに安全性の確保（担保）が重要。
- 10 ○ ゲノミックスセレクション・・・は①需要フロンティアの拡大あるいは、②バリューチェ
11 ーンの構築に係わる内容ではないか。生産現場の強化という提案の範囲をより明確にしては
12 どうか。
- 14 ○ 自然エネルギー関連の表現は、②バリューチェーンの構築に係わる内容ではないか。
- 16 ○ 飼料用米等の機能特性について、より具体的な研究目標を設定すべき。

20 III 新しい農業・農村を提案する「生産流通システム革新技術」

- 22 ○ IIIのタイトルを「新しい農業・農村を提案する・・・」と変更してはどうか。
- 24 ○ 雑草管理は強みのある農村づくりの地域政策に対応した箇所、あるいはIV 異常気象等に
25 負けない産地をつくる産地強靱化技術（産地は地域をイメージする用語に近いと考えるため）
26 の方に移す方が良いのではないか。

30 IV 異常気象等に負けない産地をつくる「産地強靱化技術」

- 32 ○ 異常気象等に負けない農村をつくる「産地強靱化技術」というような見直しも検討しては
33 どうか。

36 V 留意事項

- 38 ○ 適切な進行管理(PDCA)を行うには、評価システムの見直しも重要。研究成果ではなく、
39 普及成果を評価するシステムが必要。
- 41 ○ あるべき農業・農村の姿が研究の入口であり、それからスタートすることがバックキャス
42 ティング型研究になる。農業については経営展望を、農村については審議会農業農村整備部
43 会の地域政策に係わる検討を第一の前提として位置づけ、これまでとは逆の手順で研究開発
44 を進めるような方式をとることが必要。

- 1
2 ○ 委託プロジェクト研究から派生的に出てくる技術をいかに汲み取るかの仕組みも視野に入
3 れるべき。
4
5 ○ 成果を求めるのは当然だが、それが目的となるような（エビデンス重視的な）研究ではな
6 く世界一を目指すダイナミズムも重要。
7
8 ○ 最適な委託プロジェクト研究を推進するためには、マーケティング等を含む手法が重要。
9
10 ○ 研究成果の普及が今後とも課題になる。国と都道府県の連携をより一層密にし、普及指導
11 員を中心とした技術普及に取り組むべき。また、課題別に民間（メーカー技術者、JA 営農指
12 導員など）も含めた技術普及の強固な体制構築も必要。
13
14
15